

## 2011 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） ○古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 正倉院文書に関する史料学情報の研究資源化連携
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 ○継続
4.申請者 (所属部門・職名・氏名) 古代史料部門・教授・山口英男
5.所内共同研究者 (所属部門・職名・氏名) 古代史料部門・助教・稲田奈津子 古文書古記録部門・助教・井上 聡
6.希望する研究期間 2010 年度～ 2011 年度 ( 2 年間)
7.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります)  約 1 万点を数える正倉院文書は、日本古代史研究にとって最重要史料のひとつであり、美術・工芸・宗教・日本語・服飾・食物など、文化・科学・産業・生活全般にわたる歴史情報の宝庫である。正倉院文書研究に関わる研究者は数多く、正倉院文書から抽出される多種多様かつ大量の史料情報・研究情報を効率的に集約・利用できる基盤の構築が、関連研究の飛躍的発展の基礎として強く期待されている。本課題は、正倉院文書の字形・字体データの共有利用方式を検討することを通じて、正倉院文書から抽出される史料情報・歴史情報の学術資源化を強化発展させていくための基盤となる関連研究機関・研究者組織の連携の実現を図ろうとするものである。
8.研究の目的(400 字程度)  正倉院文書の史料学的調査・研究とその成果の公開及びデータベース公開は、宮内庁正倉院事務所（宝物調査）、東京大学史料編纂所（『大日本古文書』・『正倉院文書目録』・奈良時代古文書全文DB）、国立歴史民俗博物館（複製制作事業・複製による正倉院文書画像DB）、大阪市立大学（正倉院文書データベース SOMODA）において行われている。正倉院文書に関する学術情報の資源化連携をはかるため、2010 年度は、各DBの仕様・データ形式等の現状及び課題を調査し、データの共有化・共通化の基盤整備を実施しつつある。2011 年度は、具体的な資源化連携の例として、奈良文化財研究所（木簡字典DB）と史料編纂所（崩し字DB）による字形・字体データベースの連携の中に正倉院文書のデータを加えていく場合の条件整備とその手法に関する研究を行う。

## 9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

関連機関・組織が抽出・蓄積・運用している正倉院文書の学術情報及び学術資源化システムは、それぞれ固有の具体的な目的に即した内容であるが故に、研究利用上の高い価値を有している。各機関・組織がそれぞれメリットを得る形で学術資源化連携が実現することは、正倉院文書研究の飛躍的発展の基盤となり、正倉院文書に関わるあらゆる分野の研究者に簡便で扱いやすい研究環境を提供することになる。

## 10. 研究の実施計画

下記の内容の打ち合せ会及び研究会を実施し、史料情報の調査・収集・分析を行なう。

- 正倉院文書関係 DB の現状と課題
- 日本史史料の字形・字体 DB の現状と課題
- 正倉院文書の史料学情報の共有化・共通化の現状と課題
- 正倉院文書関係データベースの方法と目的
- 字形・字体データベースの方法と目的 (以上 2010 年度)
- 管理データの内容・形態と学術資源化
- 文字データの内容・形態と学術資源化
- 画像データの内容・形態と学術資源化
- データ仕様の共有連携
- 字形・字体データベースの分析 (以上 2011 年度)

(\* 課題の展開に応じ、より大型の外部資金等の獲得・移行を検討)

## 11. 研究成果の公開計画

- 崩し字データベース・木簡字典データベース連携による正倉院文書の字形・字体データベースの試行的構築
- 研究成果の概要についての報告作成

## 12. 共同研究員にもとめる役割

下記の研究実績に基づき、共同で史料情報の調査・収集・分析を実施し、データベース構築・字形字体分析に関して研究する。

- 正倉院文書の史料学的研究・調査
- 正倉院文書関係データベースの構築
- 史料の字形・字体分析